

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
【部門区分】第 1 部門第 2 区分  
【発行日】平成26年7月3日(2014.7.3)

【公開番号】特開2014-83391(P2014-83391A)  
【公開日】平成26年5月12日(2014.5.12)  
【年通号数】公開・登録公報2014-024  
【出願番号】特願2012-237101(P2012-237101)  
【国際特許分類】

A 4 7 J 17/02 (2006.01)

【F I】

A 4 7 J 17/02

【手続補正書】

【提出日】平成26年5月20日(2014.5.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

刃と、前記刃を保持するヘッド部と、柄と、前記ヘッド部と前記柄を接続する屈曲部とを備え、

前記屈曲部の屈曲は、素材への作用方向の反対側への屈曲であることを特徴とする皮むき器。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の皮むき器であって、

前記屈曲部は、少なくとも 10 度 屈曲することを特徴とする皮むき器。

【請求項 3】

請求項 1 又は 2 に記載の皮むき器であって、

前記屈曲部の屈曲角が 10 ～ 20 度になるように前記柄に力を加えたとき、前記ヘッド部の荷重が 500 ～ 1300 g となるように構成されていることを特徴とする皮むき器。

【請求項 4】

請求項 1 から 3 のいずれか一項に記載の皮むき器であって、

前記ヘッド部と前記屈曲部と前記柄とが、一体成形されている  
ことを特徴とする皮むき器。

【請求項 5】

請求項 1 から 4 のいずれか一項に記載の皮むき器であって、

前記柄周辺に、少なくとも前記柄を引く操作時に指の掛かる指掛け部、または、指を通す貫通した指掛穴を設けた

ことを特徴とする皮むき器。

【請求項 6】

請求項 1 から 5 のいずれか一項に記載の皮むき器であって、

前記刃の刃先を略三角形の複数の三角刃で構成した

ことを特徴とする皮むき器。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

上記課題を解決するために、本発明に係る皮むき器は、刃と、前記刃を保持するヘッド部と、柄と、前記ヘッド部と前記柄を接続する屈曲部とを備え、前記屈曲部の屈曲は、素材への作用方向の反対側への屈曲であることを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

前記屈曲部は、少なくとも10度屈曲するように構成してもよい。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

また、前記屈曲部の屈曲角が10～20度になるように前記柄に力を加えたとき、前記ヘッド部の荷重が500～1300gとなるように構成されていてもよい。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

また、前記ヘッド部と前記屈曲部と前記柄とが、一体成形されていてもよい。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

また、前記柄周辺に、少なくとも前記柄を引く操作時に指の掛かる指掛け部、または、指を通す貫通した指掛穴を設けることができる。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

また、前記刃の刃先を略三角形の複数の三角刃で構成することができる。